

研究サポート

RESEARCH SUPPORT



キャンパス内の院生の生活・研究を強力にサポートします。

空き時間は、ここでくつろぎ、勉強する — 院生研究室 —

国際文化学研究科には、院生専用の研究室が設置され、各研究室にはデスクのほか、書架やロッカーも配置されています。また、院生研究室には数多くのパソコンが配置され、インターネットや電子メールを自由に利用することができます。

自分のペースで研究を進めたい方に — 長期履修学生制度 —

この制度は、職業を有している等の事情により、2年間で博士前期課程修了に必要な単位を修得し修了することが困難な者が、入学時に計画的に2年を超えて単位を修得し修了することを申請し、大学がこれを認めた場合、2年間の授業料で2年を超えて在学できる制度です。

2年間の授業料の合計額を長期履修学生として認められた年数で除した額が年額授業料となります。ただし、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。職業を有している等の事情とは、次のいずれかに該当する者で、標準修業年限内での修学が困難な者です。

- (1) 職業を有し就業している者（自営業および臨時雇用 [単発的なアルバイトを除く。] を含む。）
- (2) 家事、育児、介護等の事情を有する者
- (3) その他研究科長が相当と認めた者

なお、この制度の利用には、上記の職業を有している等の事情以外に一定の条件があります。申請希望者はあらかじめ担当係に相談してください。



ハラスメントのないキャンパスをめざして — ハラスメント防止委員会 —

大学では、自由で充実したキャンパス・ライフを送ってほしいと思っています。性別、年齢に関係なく、互いを尊重する人間関係を築くことが大切です。とはいえ、人間関係が広がれば、望んでいないような不愉快な言動をされたり、気づかないうちに相手を傷つけたり、相手から傷つけられたり、ということが起こります。ハラスメントとは、「嫌がらせ」を意味し、就労、就学上の優位な立場を利用して、相手が望まない言動により、精神的、肉体的苦痛を与えることです。性的なことに関連するセクシャル・ハラスメント、教育上のことがらに関連するアカデミック・ハラスメント等々、さまざまな種類があります。

国際文化学研究科には、男性、女性両方の教員からなるハラスメント防止委員会が設置されています。不幸にしてハラスメントを受けてしまった場合、ひとりで悩まないで、早めに委員の教員に相談してください。ひとりで不安であれば、誰かと一緒にに行ってもらいましょう。匿名での相談も受け付けています。委員会では、相談者のプライバシー保護に十分配慮していますので、安心して相談に来てください。

コピーカードの支給

授業や研究のために必要なレジュメや資料をコピーできるように、毎年、定額のコピーカードが無料で支給されます。



就職と進学

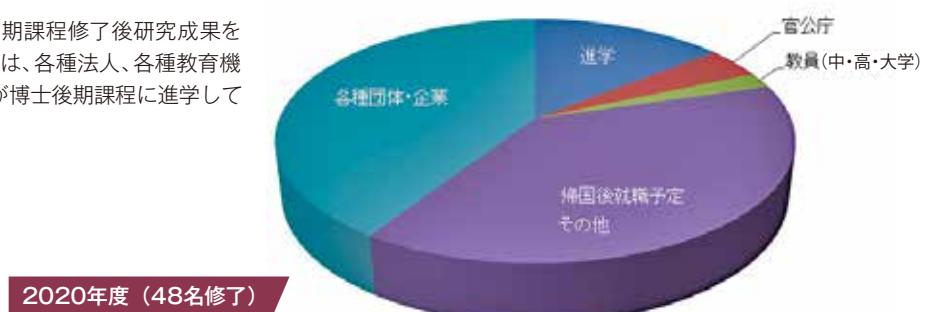
EMPLOYMENT AND CAREERS



国際文化学研究科は、創設以来、学界・教育界・ビジネス界に有為な人材を多数輩出しています。修了生はグローバル社会を切り拓くフロントランナーとして多面的に活躍しています。

1. 前期課程修了生の進路概況

2020年度の前期課程修了生48名のうち27名が、前期課程修了後研究成果を活かして就職し、社会の第一線で活躍しています。就職先には、各種法人、各種教育機関、多様な分野の民間企業があげられます。また、5名が博士後期課程に進学しています。帰国後に本国で職につく留学生もいます。



2. 前期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な就職先実績

高度な語学力と情報処理能力をベースに国際文化学の幅広い専門知識をつけた修了生は、さまざまな業種で活躍しています。公務員としては韓国法務省、パラオ政府芸術文化省、ベトナム政府関連など、海外からの留学生の活躍も目を引きます。教員としては英語、日本語、韓国語など、修了コースの特性を活かした分野で活躍する修了生もいます。

主要就職先

【国際機関】

パラオ政府芸術文化省、韓国外交産業省、タイ大使館、国連ハビタット（アジア・太平洋地域事務所）、ベトナム政府投資企画庁など
【国家公務員】

防衛省・語学職（英語）、大蔵省（現財務省）、国立民族学博物館、京都大学原子炉実験所（技官）、神戸大学職員など

公務員他

【地方公務員】

兵庫県人と防災センター、兵庫県警、大阪市役所、西宮市役所、新潟市役所、神戸市芸術センター、兵庫県立芸術文化センター、神奈川県葉山町生活環境部、神戸市役所、三田市役所など

【その他】

JICA（国際協力専門員）、国際交流基金、青年海外協力隊（エルサルバドル派遣）、関西経済連合会、日本原子力研究開発機構、海外産業人材育成協会、在外公館派遣調査員、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、長崎原爆資料館など

教員

【大学】神戸大学、兵庫県立大学、ラオス国立大学

【中学校・高等学校その他】大阪府、兵庫県、東京都、岡山県、山口県、鹿児島県、福井県、神戸市など

運輸

全日空、JTB、川崎汽船、阪急交通社、NEXCO中日本、羽田空港など

広告

電通、リクルートメディアコミュニケーションズなど

情報報

三混紡研DCS、NECソフト、NTTデータ、ソフトバンク、日本IBM、日本IBMインダストリアルソリューション、野村総合研究所、ヤマトシステム開発、住生コンピューターサービス、日立システムエンジニア、メディアファージョン、ゴールドマン・サックス、日本オラクル、NTT西日本、NECシステムテクノロジー、富士通FIP、富士通ビー・エス・シー、フジクラ、ウェブリオ、日本製薬、リクルートなど

食品

JR西日本フードサービス、カネテツデリカフーズなど

三菱重工業、日立製作所、住友ゴム工業、富士通、ダイハツ工業、NEC、YAMAHA、日本HP、日本IBM、関西電力、日立電線、川副機械製作所、トヨタ、シャープ、帝国電気、コスモ石油、バンダイ、コベルコシステム、ニチダイフィルタ、明和、矢崎創業、台湾日立化成工業、博瀬電機貿易（上海）有限公司、帝国電機、中国電信北京支社、JNC、パナソニック、ローランド、明星産業、華美電子など

マスコミ

共同通信、時事通信、神戸新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、日本放送協会（NHK）、京都新聞社、高知新聞社、MBSラジオなど

文化

関西フィルハーモニー管弦楽団、（公益財団法人）びわ湖芸術文化財団、（公益財団法人）ニッセイ文化振興財団、公益財団法人吹田市文化振興事業団など



3. 前期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な進学先実績

本学の大学院博士後期課程をはじめ、他大学の大学院にも多数が進学しています。2020年度の例では、修了生46人中、8名が博士後期課程に進学しています。

主要進学先

神戸大学 國際文化学研究科、人文学研究科、人間発達環境学研究科、工学研究科など

その他国公立大学 京都大学大学院、九州大学大学院、総合研究大学院大学、東京都立大学大学院、神戸市外国語大学大学院など

海外大学・私立大学 シエフィールド大学、ハンブルク大学、ルーヴェン大学、パリ第7大学、ナポリ東洋大学など

4. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の進路概況

大学教員や学芸員などの職についています。2020年度修了生は15名で、大阪大学(特命助教)、神戸大学(非常勤講師)、大阪工業大学(特任講師)、で勤務しています。

5. 後期課程修了生（旧研究科を含む）の近年の主な就職実績

海外・国内の大学において、多くの修了者が研究者・教育者として活躍しています。また近年、学位取得後、大学だけではなく企業や研究所に就職する人も増えてきています。

主要就職先

海外大学 天津外国语大学、青岛大学日本語学部、浙江大学人文学院、ヤンゴン大学人類学科、中国科学院外国语学部、台湾国家科学委员会・人文学研究中心研究员、大连外国语学院日本語学院、湖南工业大学外国语学院、中国国立広州中医药大学、中国内蒙古大学トルコ・チャナッカレオンセキズマルト大学など

【国立】

大阪大学、神戸大学留学生センター、神戸大学百年史編集室、静岡大学、京都大学留学生センター、福井大学教育地域科学部、

国公立大学等 国立沼津工業高等専門学校教養科、福井大学、ジェトロ・アジア経済研究所など

【公立】

島根県立大学看護学部、神戸市外国语大学、兵庫県立総合衛生学院、北九州市立大学基盤教育センターなど

大阪工業大学、近畿大学、同志社大学、ブール学院大学国際文化学部、広島国際大学、大妻女子短期大学、甲南女子大学、四條畷学園短期大学、花園大学文学部、神戸学院大学経営学部、関西学院大学国際学部、関西学院大学言語教育研究センター、甲南大学人間科学研究所研究员、神戸情報大学院大学、武庫川女子大学、武蔵大学社会学部、環太平洋大学、京都精華大学など

私立大学 呉市海事歴史科学館学芸員など

学芸員 神奈川県警察科学捜査研究所、兵庫留学生会館、イオン、教育開発出版、メディキット、カナフレックスコーポレーション、財団法人安全保障貿易情報センター、国際交流基金、愛知県西尾市教育委員会、アステラス製薬、ファーストリテイリング、三菱銀行（中国・広州）、中国航空工業集団、国際電気通信基礎技術研究所など

充実したキャリア・サポート

国際文化学研究科はキャリア・サポートのコアに教育を据え、それを補強する就職支援活動を強力に、きめこまやかに推進するユニークな研究科を目指しています。近年は、特に外国人留学生の就職支援活動を充実させるように努めています。

就職支援を担当する鶴甲第一キャンパスキャリアサポートセンター（鶴一CSC）は、就職、留学、資格試験、人生設計などに関するキャリア関連図書が閲覧できる独自のコーナーを設け、企業で働く方々の体験談や専門分野の知識の企業での生かし方などの講演会や就職活動体験報告会等の働き方の探求に関わる行事を開催しつつ、面接対策、インターンシップ対策など就職活動に直接関わる各種の情報提供をしています。全学の就職支援活動と常に連携しながらも、院生一人ひとりの進路選択の相談に応じるなど、充実したサポート体制をとっています。近年は、グループディスカッション講座など、新しい企画にも挑戦する一方、特に留学生のための就職支援活動に力を入れています。

全学の研究支援施設・学生寮・奨学金

RESEARCH FACILITIES, DORMITORIES, SCHOLARSHIPS



CALL 室 / ランゲージ・ハブ室

研究科のキャンパスには、国際コミュニケーションセンターが運営する外国語学習支援施設があります。「アクティブラーニングラボ (AL Lab)」と「インタラクティブラーニングラボ (IL Lab)」では、外国語学習において、ペアワークやグループディスカッションなどの双方向型学習が円滑に行えるような教室環境が整えられています。

「ランゲージ・ハブ室」には、英・独・仏・中・露・韓の各国語を話す留学生が常駐しており、気軽に外国語による会話体験を持つことができます。また、「ランゲージ・ハブ室」では、英語プレゼンテーション・セミナーなど、さまざまな外国語教育プログラムが提供されており、学んだ外国語を実際に使う場が用意されています。これらの充実した施設を活用することで、外国語の実践的運用力の向上が期待できます。英語をはじめとした既修外国語のブラッシュアップはもちろん、ぜひ、新しい外国語の習得にもチャレンジしていただきたいと思います。



学生寮

大学の寮として、男子学生用に「住吉寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」、女子学生用に「女子寮」「住吉国際学生宿舎」「国維寮」「白鷗寮」があります。学生寮の寄宿料は月額4,700円～18,000円(光熱費などは別)です。格安であること、研究科を超えた友人を作りやすいことなどが寮のメリットです。また、「女子寮」を除き、日本人学生と留学生の混住型となっており、国際的な交流が期待できます。

国際文化学図書館

神戸大学には各キャンパスに図書館があります。中央図書館というものはありません。国際文化学部図書館の入口には「総合図書館」と「国際文化学図書館」という2つの看板が掛けられています。総合図書館というものは全学共通教育の学習支援を行うことを目的としており、全学問分野の資料の充実に努めています。国際文化学図書館は、国際文化学部・本研究科の学生・院生向けに、文化交流や各国の文化事情など国際文化学に関わる資料を中心収集しています。

本図書館では、「学生希望図書」という予算費目があり、本研究科の大学院生は、学術的な図書の購入希望を申請することができます。図書館では、蔵書の貸し出しに加えて以下のサービスが提供されます。複写申し込み、学内の他の図書館からの取寄せ、他大学からの図書貸与やコピーの申し込み、購入希望の受付などです。またこれらのサービスは、図書館まで行かずに、学内のパソコンの画面から依頼することができ、さらに文献やコピーの到着をEメールで案内してくれるので大変便利です。また図書館のホームページで電子ジャーナル検索、データベース検索、新聞記事検索を利用できます。平日は8:45から21:30まで、土曜日は10:00から18:00まで開館しています。



奨学金

日本学生支援機構奨学金と神戸大学独自の奨学金、財団や企業、地方自治体などが支給する奨学金があります。日本学生支援機構の場合、第一種奨学金(無利子貸与)と第二種奨学金(有利子貸与)があり金額も異なります。

研究会・研究誌の紹介

RESEARCH GROUPS AND JOURNALS



国際文化学研究科には多くの研究会・プロジェクトが組織され、研究科の教育と研究の重要な一翼を担っています。

神戸大学大学院生紀要『国際文化学』

神戸大学国際文化学研究科は、研究科に所属する大学院生の研究を促進することを目的とし、研究成果を広く公開するために、『国際文化学』（大学院生紀要）を刊行しています。

『国際文化学』の前身は、2011年度まで年2回（通算25号）、神戸大学国際文化学会（学術組織）が発行してきた学術雑誌です。この雑誌は、研究科の教育・研究の一翼を担ってきましたが、2012年度より、大学院生の学術研究をサポートし、大学院教育の効果を強化するために、オンラインの大学院生紀要としてリニューアルいたしました。年1回の発行で、投稿資格者は国際文化学研究科の大学院生および編集委員会が認めた者です。

『国際文化学』の編集方針は、前身誌の方針を引き継ぎ、さらに大学院教育の一環としての特徴を備えております。大学院生が論文を投稿すると、指導教員以外から複数の査読委員が選ばれ、その論文の審査にあたります。専門的なコメントが必要な場合は外部の研究者に査読を依頼する事もあります。査読教員は、論文掲載の可否を決定するだけでなく、論文に問題がある場合には、それをどう修正すべきかについて懇切丁寧なコメントを投稿者に返します。論文の修正期間が十分に確保されているので、投稿者は指導教員とも相談しつつ、じっくり論文を書き直すことができます。このような査読一修正一再投稿のプロセスを経て、大学院生は全国学会などに投稿するための学問上の基本的な作法、必要とされる学術水準について学びます。

ホームページ

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/eISSN=21872082.html>

『神戸文化人類学研究』

『神戸文化人類学研究』は、2007年に創刊された文化人類学コースが発行する学術雑誌です。これは、2002年に創刊された旧神戸大学社会人類学研究会が発行した学術雑誌『ほぶるす』を前身としたものです。『神戸文化人類学研究』は、学内外2名の研究者による厳正な査読によって学術的水準を維持しています。本誌では、文化人類学を専攻する本研究科所属大学院生の研究成果が主に公表されていますが、近年では他大学の大学院生、研究者も投稿するようになっています。

なお、文化人類学コースでは、本コース所属大学院生を中心とした神戸人類学研究会が組織されています。定期的に開催される本研究会では、学内のみならず学外の研究者も招いて活発な議論が交わされ、その開催数は、2017年6月の段階で75回を数えています。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/group/kobe-anthro/>

『日本文化論年報』

『日本文化論年報』は、1998年3月、学部および大学院の日本文化論講座（現在は日本学コース）を母体に創刊、年1冊の刊行を続けています。

講座・コースの研究・教育活動の牽引を目的に、教員および大学院生の研究成果、また優れた学部卒業論文などを掲載しています。その他教育活動に関する彙報、卒業生情報などもあります。刊行に際しては、神戸大学山口誓子学術振興基金の補助金を得ています。

ホームページ

<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/staff/gakunone/home/nenpou.html>



論文題目

THESIS TITLES



国際文化学研究科 論文題目（令和元年度提出分）

※ (D) 博士論文 (M) 修士論文 (MC) 修了研究レポート

【日本学コース】

- (D) 混淆する戦前の映像文化（幻燈・玩具映画・小型映画）の受容とその歴史的変遷
(M) 三島由紀夫の思想 -- 古典觀・天皇觀を中心に

【アジア・太平洋文化論コース】

- (D) 民国期における山西省の「村治」運動の研究
—「自治」の名を借りた農村部政治権力構造の再編—
(M) 外国にルーツを持つ児童の教育問題を巡る考察 一神戸市のNPO組織を事例に—
(M) 清代乾隆年間のモンゴルにおけるラマ（喇嘛）旗の財政
—内モンゴルのフレー・ラマ旗の運営実態を事例として—

【ヨーロッパ・アメリカ文化論コース】

- (M) ベラルーシ・ソヴィエト社会主义共和国における「ベラルーシ化」政策の展開
(MC) 映画『赤い薔薇ソースの伝説』(Como agua para chocolate) にみる母性表象
(MC) イーヴリン・ウォーの『プライズヘッド再訪』に見られるキリスト教信仰
(MC) 移民大国アメリカの移民政策と中国系移民の現状に関する考察 —合法移民を中心に—

【文化人類学コース】

- (D) 中央砂漠における飲酒をめぐる一連の過程とアナング・ウェイ
—ボストン原住民状況を生きるオーストラリア先住民アボリジニの民族誌
(M) 文化遺産登録による民間信仰の変容と復興
—中国広西チワン族自治区賓陽県の砲龍老廟を事例に—
(M) 観光及び移住生活における「文化」の提示 一東京都江戸川区西葛西・江東区東大島周辺のインド人妻らによる自宅でのインド料理教室を中心に—
(M) 都市同郷団体の「つながり」一関西喜界町郷友会を事例に—
(MC) 伝統祭礼の継承における本来のしきたりから離れた人の影響力
—三重県四日市市富田の鯨船行事を事例に—
(MC) 多岐な要素に影響された差異化の観光経験 一尼崎えびす神社の巫女体験観光を事例に—
(MC) 震災記憶における国家権力と地域社会—中国四川省都江堰市を例に—
(MC) 現代中国黎族における祖先信仰にまつわる変容と創造—海南島陵水県の黎族村落の事例—

【比較文明・比較文化論コース】

- (MC) 郁達夫文学と日本自然主義文学—その自然描写を切り口に

【国際関係・比較政治論コース】

- (D) A Historical Institutional Account for EU Social Policy Development—Path Dependence on Supranational Institutions in the European Integration Process—(歴史的制度論の観点から見たEU社会政策の発展過程—欧州統合における超国家制度への経路依存)—
(M) セルビアのヨーロッパ化 一メディア・表現の自由とコソボとの関係正常化に注目して—
(M) 沖縄における中道政治の意義と限界—沖縄社会大衆党の再評価—
(M) アメリカ合衆国連邦最高裁判所における道徳的規制をめぐる抗争—ウォーレン・コートからロバーツ・コートにおける保守の台頭を中心に—
(M) トランプショナルな公共団体の形成への日本の新聞の関与—国際NGOの報道から—
(MC) The Affirmative Action in the Access to Higher Education in France
(MC) イラン核開発問題における討議の論理による調整 - 包括的共同行動計画 (Joint Comprehensive Plan of Action) 締結過程のP5+1 およびイランによる交渉分析 -
エジプトにおけるテロリズムの社会運動論の分析
—政治的機会構造とフレーミングのアプローチから—
(MC) アメリカのシティマネージャー制度の実態と中国におけるシティマネージャーの可能性
(MC) Wielding Japanese Soft Power in Georgia: Interplay of Cultural and Economic Resources
(MC) The Evolution of Japanese Foreign Trade Policy: Analysis of Factors and Actors in an Historical Perspective
(MC) An Analysis of Japan's Inbound and Outbound Soft Power from Historical and Theoretical Perspectives: the Cases of the JET Programme and the Cool Japan Initiative

【モダニティ論コース】

- (D) エルンスト・ユンガーの対抗近代主義 その内容と展開

【先端社会論コース】

- (MC) 現代日本社会が取りこぼす人たち - 「男性であること」と「育児・介護」の関係の考察 -

【芸術文化論コース】

- (D) シンガポールのコミュニティにおける芸術文化活動史
—「ハートランダ」と「公民社会」の形成をめぐって—
(MC) 地方芸術祭は必要か 地方都市・神戸での試み
「アート・プロジェクト KOBE 2019: TRANS-」を例に
(MC) 地域を生かす文化政策のあり方について—NPMの再検討と文化資源の利活用の観点から—
(MC) 移動演劇の演劇史的意義 観客の存在をめぐって
(MC) 丹波の森国際音楽祭 シューベルティアーテ坦ばに於ける変遷と今後の展望について
(MC) 中仏文化交流の媒介となる日本語翻訳の役割について
—ジュール・ヴェルヌ『鉄世界』、『十五少年』を例として—
(MC) アートプロジェクトにおける行政とNPOとの協働のあり方について
—アート・プロジェクト: TRANS- と「下町芸術祭」を事例として—
(MC) Hasegawa Takejirō and the export of chirimón in Europe from 1885 to the middle of the 20th century: the diffusion of a cultural message.

【言語コミュニケーションコース】

- (D) 日中両言語の受身の使用実態と対応関係及びそれに基づく中国語母語日本語学習者の受身の誤用分析
(D) 日本での就職活動において中国人留学生が抱える問題点 - ビジネス日本語の教育内容への提言を目指して-
(M) 中国人日本語学習者のモチベーションを高める効果的な教師ストラテジー
(M) 日本語学習者によるトキ節の多用に関する研究
(M) 中国人学習者による日本語条件表現「ト」と「ハ」の習得研究
(M) 接続助詞「たり」の単独用法の使用実態と日本語教育への導入方法
(M) 広告における記号間翻訳のストラテジーについて——— HUAWEI の事例を中心に
(M) 三者会話場面における中国人日本語学習者のコミュニケーション・ストラテジー使用に関する一考察
(M) 親しい関係における否定的評価表現の日中対照研究—日本人大学生と中国人日本語学習者の友人同士の会話を例に—
(MC) 一人称自伝小説における語りの技法 —Charles Dickens の David Copperfield を事例に—
(MC) 実例にもどづいた長崎方言における文末詞タイの用法の研究—非母語話者にもわかりやすい記述をめざして—
(MC) 中国人日本語学習者による接続助詞「けど」の使用実態—「言いさし文」を中心に—
(MC) The Carlos Ghosn Case in the Media A Comparison of France and Japan

【感性コミュニケーションコース】

- (D) 感情音声の生成と知覚—日本語母語話者および中国語を母語とする日本語学習者を対象に—
(MC) 中国人日本語学習者における長音の知覚と产出—長音位置とアクセント型に着目して—
(MC) 大学生における孤独感の原因帰属と対処方略 - 中国の大学生と日本の大学生を対象に—

【情報コミュニケーションコース】

- (D) ライティング学習における形成的フィードバック支援システムの構築に関する研究—日本人中国語学習者を対象に—
(M) 料理レシピレビューを集約したレシピ選択のための情報提示
(M) A Programming Learning Support System based on Programmed Visual Contents Comparison
(M) ドライバーのイライラ軽減システムのための表情認識に関する研究

【外国語教育システム論コース】

- (M) Is Heathcliff a Demon? ---An Analysis of Heathcliff's Humanity
(MC) 「ワインズバーグ・オハイオ」に描かれた産業化に起因するグローバル化について

【外国語教育コンテンツ論コース】

- (D) 現代日本語におけるオノマトペの用法解説と中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言—コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって—
(M) 書き言葉コーパス・話し言葉コーパス・母語話者コーパス・非母語話者コーパスの四元分析に基づく日本語基本オノマトペの検討
(M) 母音に先行する撥音の弱化について 一日本語母語話者の生成と知覚—
(MC) シャドーイング・リピーティングが日本人英語学習者の音声に与える影響
—ピッチ幅・核配置に着目して—

【先端コミュニケーション論コース】

- (D) 中国語母語話者による日本語の特殊拍間の混同に関する研究
(D) 日本大学生を対象とした英語の単音及び単語間の音のつながりの知覚と自己モニターを取り入れた教授法に関する研究



国際文化学研究科 論文題目（令和2年度提出分）

※ (D) 博士論文 (M) 修士論文 (MC) 修了研究レポート

【日本学コース】

- (D) 作家を「記録」する映画——「新しい波」と1950年代のアヴァンギャルド芸術運動
- (M) Meaning-making Process behind Transnational Text Appropriation: Analysis of Japanese Television Drama 1 Rittoru no Namida and its Indonesian Adaptation Buku Harian Nayla
- (MC) ホラーゲームにおける恐怖表現及びキャラクター造形の比較研究
- (MC) 熊本藩の雅楽伝承～松平家から細川家に伝わった舞楽実践を中心～

【アジア・太平洋文化論コース】

- (D) 19世紀及び近現代東部内モンゴルにおける蒙地開放及び中国本土式の行政機構設置問題—ゴルロス前旗を事例として—
- (D) 近代中国における言論統制の系譜—中国国民党宣伝部成立期の研究—
- (M) 19世紀広東省における貿易の周辺性の研究
- (M) 2000年代高度成長期中国における菩陀山の「巡礼」—「商業化」の表層下にある中国伝統宗教—
- (MC) 宮崎市の労働人口不足と日本語学校の留学生 一宮崎市のネパール人・ベトナム人留学生を中心に—

【ヨーロッパ・アメリカ文化論コース】

- (M) キューバにおけるエトゥカシオン・ボブルーを通じたノンフォーマル教育の可能性 -Centro Memorial Dr. Martin Luther King, Jr. を例に -
- (M) 中国雲南省プアール市におけるコーヒー生産業の発展と現地農村社会への影響
- (MC) デカセギ2世ペルー人青年のアイデンティティ
- (MC) 明朗な人々のためのオラトリオ～シューマンの《楽園とベリ》考察
- (MC) アニエス・ヴァルダ監督作品『歌う女、歌わない女』の一考察—フランス人女性は自身の性とどのように向き合うのか—
- (MC) Black Lives Matter運動に関する考察—黒人知識人 W・E・B・デュボイスの「急進主義」を中心に—
- (MC) アメリカの近代家族制度と同性婚—女性にとっての家族像に焦点を当てて—

【文化人類学コース】

- (D) 手工芸品生産工房における女性と仕事の民族誌—バングラデシュの首都ダカにおけるカジの実践と場に着目して
- (D) ナミビア牧畜民ヒンバ及びヘレロの土地認識の研究—土地所有制度と「伝統的権威」をめぐる政治性と表出する多層性—
- (M) 見えない権力構造と沈黙～「独島・竹島問題」をめぐる在日韓国朝鮮人に強制される答えと沈黙を事例として～
- (M) 移民女性によるマッサージ実践と移民の女性化—在日タイ人女性によるタイ・マッサージ実践を事例に—
- (M) 現代の中小酒メーカーの「商売」—兵庫県播磨地域における事例研究—
- (M) 日本社会における「エスニック」とは何か—日本社会におけるベトナムフードの受容を中心として—
- (M) ホームレス・メディア:「統一日報」の視点から見た金大中大統領の「太陽政策」
- (MC) 民族観光の発展と地元民の対応:汶川大地震後のチャン族を事例として
- (MC) 中国農村地域における地方劇に関する研究—周至県上天台の廟会での秦腔演出を事例に

【比較文明・比較文化論コース】

- (MC) 江戸時代の文献から見る魚食の分析～『江戸流行料理通』・『誹風柳多留』より

【国際関係・比較政治論コース】

- (M) フランス大統領マクロンによる中道政治の再生と政治対立構造の変容
- (M) アメリカ合衆国連邦政府に対する多州連合訴訟における州司法長官の提訴パターンの計量・質的比較分析:オバマ、トランプ両政権の環境政策の事例を中心に
- (M) 核兵器政策決定における政治体制の比較研究 一リビアとイスラエルを中心に

【モダニティ論コース】

- (D) ニクラス・ルーマンの宗教社会学
- (D) ピーター・L・バーガー研究—社会学、宗教、保守主義—
- (MC) R・フォースの寛容論—J・ロールズ、J・ハーバーマスとの比較を手がかりに

【先端社会論コース】

- (M) 日本における外国人技能実習生たちを支援する団体に関する一考察—新しい社会運動論の視角から—

【芸術文化論コース】

- (M) 交響曲第八番におけるグスタフ・マーラーの救済觀
- (M) ベルギーにおけるコンゴ系アフリカと植民地主義の可視性～ブリュッセル・マントンケを中心にも～
- (MC) 表現の自由と規制における「子ども」という存在の問い合わせ—参加型アートプロジェクト「チルドレンズ・チョイス・アワード」を事例に—
- (MC) 集団的な存在論的不安に対する、他者による語りなおしの有効性—崇仁地区でのアートプロジェクトを事例に—
- (MC) 日韓インディーズバンド育成モデルの比較 -新しい支援プログラムの提言のために -
- (MC) 芸術と政治の関係性：退廃芸術展と大ドイツ芸術展をめぐって

【言語コミュニケーションコース】

- (D) アガサ・クリスティ作品における言語トリック—関連性理論による探偵小説の多重解釈分析—
- (D) コミュニケーション摩擦場面から見た通訳者の倫理—中国の日系企業における社内通訳者を中心に—
- (D) 社会的要因が慰めの言語表現と非言語表現に及ぼす影響—日本と中国のドラマを題材とした研究—
- (M) 映画のパラテクスト翻訳比較—タイトルとポスターの事例を中心に -
- (M) 日本語教育の観点からみた外国人向け介護指導テキストへの提案—介護指導テキストの会話文における「共感」の表現に注目して—
- (M) 日本語学習者の「カモシレナイ」の習得に関する考察—婉曲用法を中心に—
- (M) 在日外国人留学生のコミュニケーション意欲と日本語学習動機の関係性について
- (MC) 留学経験が日本人英語学習者の語用論的能力の習得に及ぼす影響について
- (MC) 恋愛映画におけるスピーチスタイルとスタイルシフトに関する考察—原版と字幕及び吹き替え翻訳版の比較に基づいて -
- (MC) 日本人大学生英語学習者の英語の未来表現の使い分けについて
- (MC) 日本人英語学習者における過剰受動化エラー～非対格性の階層の影響～

【感性コミュニケーションコース】

- (D) 日本語韻律における下降傾向に関する研究
- (MC) 対人葛藤解決方略の日中比較

【情報コミュニケーションコース】

- (D) 摘人化エージェントによる説得に関する研究
- (M) テキスト投稿型SNSにおけるコンテンツの拡散に関する分析
- (M) ディープラーニングを用いた小説の登場人物画像化に関する研究
- (M) エンタインメントを用いたプログラミング初学者の学習意欲促進システムに関する研究
- (M) やさしい日本語の特徴分析

【外国語教育システム論コース】

- (MC) 日本人大学生の英語ライティング能力に関する実態調査：結束性と評価の関係に焦点を当てて
- (MC) 留学生を対象とした日本語ライティング支援室に関する事例研究：書き手と読み手の対話に着目して

【外国語教育コンテンツ論コース】

- (D) 現代英語における前置詞使用実態と日本人英語学習者による前置詞使用傾向の解明—コーパス研究をふまえた新たな前置詞指導を目指して—
- (D) 中国語標準語声調の知覚研究—中国語母語話者と日本人中国語学習者を対象として—
- (D) Some Interactional Practices Teachers Use to Pursue a Response from Students in EFL Classrooms (EFL教室における学習者からの反応を求めるために教師が用いている相互作用の諸実践について)
- (MC) 小学校英語教育における重要語および重要連語の選定手法の検討—コーパス言語学の言語教育への応用—
- (MC) 中国北方方言話者の日本語有声破裂音に対する日本語母語話者の知覚

国際文化学研究科教員一覧

ACADEMIC STAFF



PHOTOGRAPH BY A.

コース	氏名	職名	メールアドレス
日本学	板倉 史明	准教授	itakura ■ people.kobe-u.ac.jp
日本学	長 志珠絵	教授	s.osa ■ landscape.kobe-u.ac.jp
日本学	辛島 理人	准教授	karashima ■ people.kobe-u.ac.jp
日本学	昆野 伸幸	准教授	nobuyuki ■ port.kobe-u.ac.jp
日本学	シュラトフ ヤロスラフ	准教授	shulatov ■ people.kobe-u.ac.jp
日本学	寺内 直子	教授	naokotk ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	伊藤 友美	教授	itot ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	貞好 康志	教授	ysd ■ kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	谷川 真一	教授	tanigawa ■ port.kobe-u.ac.jp
アジア・太平洋文化論	萩原 守	教授	hagihara ■ kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	井上 弘貴	准教授	hiro_inouye ■ port.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	小澤 卓也	教授	ozataku ■ harbor.kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	西谷 拓哉	教授	takuyan ■ kobe-u.ac.jp
ヨーロッパ・アメリカ文化論	野谷 啓二	教授	notani ■ kobe-u.ac.jp
文化人類学	梅屋 潔	教授	umeya ■ people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	大石 侑香	講師	yuka ■ diamond.kobe-u.ac.jp
文化人類学	岡田 浩樹	教授	hokada ■ kobe-u.ac.jp
文化人類学	齋藤 剛	教授	t-saito ■ people.kobe-u.ac.jp
文化人類学	下條 尚志	准教授	shimojo ■ people.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	北村 結花	准教授	yuika ■ kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	近藤 祚秋	講師	skondo ■ boar.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	田中祐理子	准教授	tanaka.yuriko ■ people.kobe-u.ac.jp
比較文明・比較文化論	塚原 東吾	教授	togotsukahara ■ harbor.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	坂井 一成	教授	kazu ■ harbor.kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	中村 覚	教授	satnaka ■ kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	安岡 正晴	教授	yasuoka ■ kobe-u.ac.jp
国際関係・比較政治論	新川 匠郎	講師	shoniikawa ■ harbor.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	石田 圭子	准教授	keikoishida ■ people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	市田 良彦	教授	ucml ■ kobe-u.ac.jp
モダニティ論	上野 成利	教授	ueno ■ people.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	鹿野 祐嗣	助教	yujishikano ■ emerald.kobe-u.ac.jp
モダニティ論	松家 理恵	教授	janjur ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	青山 薫	教授	kaoru ■ tiger.kobe-u.ac.jp
先端社会論	小笠原博毅	教授	hiroki ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	桜井 徹	教授	sakurait ■ kobe-u.ac.jp
先端社会論	西澤 晃彦	教授	nishizawa ■ people.kobe-u.ac.jp
先端社会論	工藤 晴子	講師	haruko.kudo ■ people.kobe-u.ac.jp



コース	氏名	職名	メールアドレス
芸術文化論	池上 裕子	教授	ikegami ■ port.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	岩本 和子	教授	iwamotok ■ kobe-u.ac.jp
芸術文化論	岡本 佳子	講師	okamoto-y ■ people.kobe-u.ac.jp
芸術文化論	松井 裕美	准教授	hiromi.mastui ■ people.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	石田 雄樹	講師	yishida ■ port.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	川上 尚恵	国際連携推進機構 講師	kawakami ■ sapphire.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	小松原哲太	講師	komatsubara ■ port.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	齊藤 美穂	国際連携推進機構 准教授	msaito ■ people.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	田中 順子	教授	jitanaka ■ kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	朴 秀娟	国際連携推進機構 講師	sypark ■ aquamarine.kobe-u.ac.jp
言語コミュニケーション	藤濤 文子	教授	fumiko ■ kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	林 良子	教授	rhayashi ■ kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	松本絵理子	教授	ermatsu ■ kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	巽 智子	講師	tt ■ port.kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	北田 亮	准教授	ryokitada ■ port.kobe-u.ac.jp
感性コミュニケーション	南本 徹	助教	minamimoto.toru ■ topaz.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	大月 一弘	教授	ohtsuki ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	康 敏	教授	kang ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	清光 英成	准教授	kiyomitu ■ kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	西田 健志	准教授	tnishida ■ people.kobe-u.ac.jp
情報コミュニケーション	村尾 元	教授	hajime.murao ■ mulabo.org
外国語教育システム論	島津 厚久	大学教育推進機構 教授	shimazu ■ puppy.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	高橋 康徳	大学教育推進機構 准教授	ytakahashi ■ port.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	濱田 真由	大学教育推進機構 助教	myhama ■ harbor.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	廣田 大地	大学教育推進機構 准教授	hirotadaichi ■ ruby.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	保田 幸子	大学教育推進機構 教授	syasuda ■ opal.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	安田 麗	大学教育推進機構 講師	r.yasuda ■ port.kobe-u.ac.jp
外国語教育システム論	横川 博一	大学教育推進機構 教授	yokokawa ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	石川慎一郎	大学教育推進機構 教授	iskwshin ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	柏木 治美	大学教育推進機構 教授	kasiwagi ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	木原恵美子	大学教育推進機構 准教授	emiwamoto ■ aquamarine.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	グリア・ティモシー	大学教育推進機構 教授	tim ■ kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	朱 春躍	大学教育推進機構 教授	shu_s_y ■ koala.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	芹澤 圜	大学教育推進機構 助教	m.serizawa ■ phoenix.kobe-u.ac.jp
外国語教育コンテンツ論	大和 知史	大学教育推進機構 教授	yamato ■ port.kobe-u.ac.jp
先端コミュニケーション論	内海 章	客員教授	utsumi ■ atr.jp
先端コミュニケーション論	住岡 英信	客員准教授	sumioka ■ atr.jp
先端コミュニケーション論	山田 玲子	客員教授	yamada ■ atr.jp

教員アドレスについては、■を@に置き換えてご利用ください。